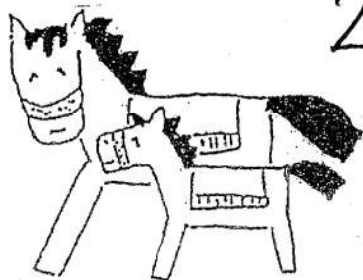


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ぽっくりぽっくりと。

20年 12月 NO.169



〒 760-0044

香川県高松市御坊町2-2

高松保育園内 地域子育て支援センター

TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857

<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～ 12月のプログラム～お気軽にどうぞ～

12月 6日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
12月 13日	土	創立62周年記念発表会 アクトホール 9:30～13:00	乳児さんも親子で出演します。 どうぞどなたでもおいで下さい。
12月 17日	水	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	1年のふりかえりと来年の あり方について話し合います。
12月 20日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も保育体験に おいで下さい。
12月 20日	土	リフレッシュ講座 14:00～16:00	簡単なエアロビクスで体を動かして みましょう。(託児予約要)
12月 24日	水	健康・育児相談 10:30～11:30	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)

園庭開放 (13:30～15:00)

12月 5日 (金) 「わはは広場」の親子参加

*雨天時、出前保育

育児相談 (月～土) 9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、
保育園生活、入園・見学について
の相談もどうぞ。

金子みずぶ童謡全集より

落葉、
落ちて、
誰か、
のき
きれ
のこ
ら
ず
す
す
て
て
て
いた。

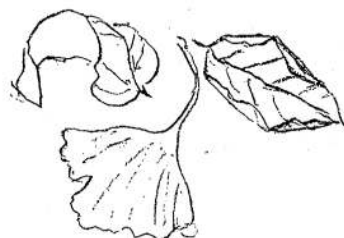
あ
と
の
角
ま
で
つ
い
て
駈
つ
た。

さ
ら
り
と
一
掃
き
掃
い
た
と
き、
表
に
楽
隊
や
つ
て
来
た。

ひ
と
り
で
嬉
し
く
な
っ
て
来
た。

こ
た
あ
れ
も
掃
い
て
お
き
ま
し
よ
ち
に
か。

落葉



四国初上陸「お父さんのための子育て研修」を開催！

11月16日（日）14時より20人のお父さんの申しこみのもと、当園で「お父さん応援プログラム」（主催：県児童青少年健全育成事業団）が実施されました。このプログラムは埼玉県のNPO 法人新座^{にいざ}子育てネットワーク（坂本純子代表理事）がカナダの父親子育て促進プログラムを日本人向きに開発したものです。

その坂本さんを講師に、5人ずつ4グループに分かれて始まりました。

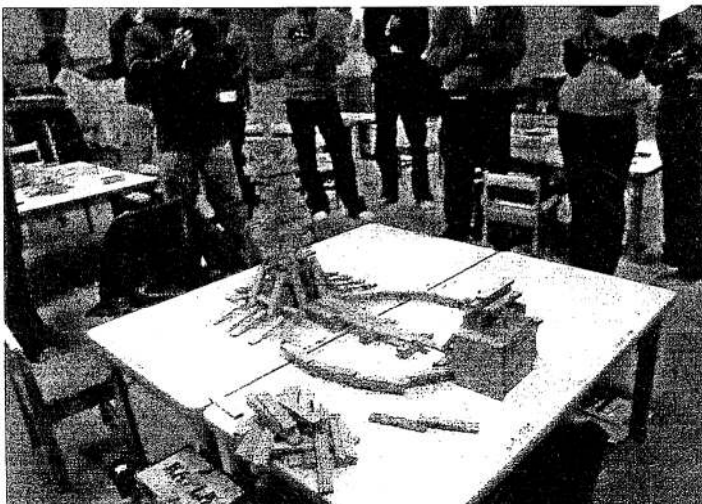
まず、色々な立場の父として、子どもや家族とのかかわりについての発言をビデオで見て、すこし緊張がほぐされたあと、グループそれぞれで自己紹介をしました。

そして、グループのみんなで話し合っ
て「助っ人マップ」を作成。子育ての手助けをしてくれる施設やネットワークや制度をマグネットに書きこんで張りつけマップづくりをし、グループ毎にその数や内容を発表しました。

その後、当園のおやおや会についてふりかえてみました。平成16年1月に初めての会を開き、運動会・地藏盆・発表会・おもちつきなどのお手伝いや和太鼓練習、小柳先生を囲んで子育ての話やバーベキューや鍋パーティなどしてきました。そしてことし5月からお父さん主導で計画、広報、運営の新たな動きが始まりました。これからの活動の参考にと平成12年に地域のおやじ15名で立ち上げた「栗林おやじ塾」の地域活動のようすをまとめて資料にしました。

すこし休憩後、地域や家庭での父親の役割や仕事と生活の調和（ワーク、ライフ、バランス）などについて講義を受けました。はじめにビデオで見たお父さんたちの父親としての役わりについての発言をビデオで見たあとグループで仕事（職場）と生活（家庭）とをイメージして、カプラという同じ大きさの長方形の

積木を重ねて「塔」をつくるワークショップをしました。共同制作するのにとまどいのあったグループのお父さん方も、だれかがつみあげていくとイメージは拡がり、職場と家庭との塔はつながっていきました。各グループ別に作品の思いを発表しましたが、お父さん方はいたずら少年のように、無邪気で充実して、生き生きとした表情をしていました。



研修後のアンケートには「このような研修があればまた参加したい」「多くの気づきがあった」などの感想がよせられました。これを機会に父親としての役割を自覚し、社会全体が父親の子育てに関心を持ち、企業も仕事と育児の両立に理解をもって、父親の育児や家事の時間がもっと多くとれるようになってほしいものです。



「おとこの次世代育て」～男性 33 人からのメッセージより～

野村^{まんさい}萬齋（狂言師）

3歳の息子が先日、「^{うつぼざる}鞆猿」で初舞台を踏みました（注・平成15年9月）。それまで稽古を重ねてきたので舞台はきちっと務めたのですが、初めて目にする大勢のお客様に興味深々。これは師匠でもある私にとって予想外の反応でした。しかし、新しいものへの興味が先に立つのは子どもならでは。テレビで放送中の「にほんごであそぼ」も、子どもたちが理屈ではない言葉遊びに好奇心をくすぐられ、どこかで言葉の持つ力や豊かさを敏感に感じ取っているのだと思います。現代はメールなど言葉が文字化し過ぎていて、どうしても言葉＝情報となりがち。でも、音が発する表情のようなものは、子どもたちにとってとても快いもの。あの番組で、我が家を含め周りの子たちも早く言葉を覚えたようで、伝統芸能を通して日本語の豊かさを伝える意義を感じています。

また、私にとって息子は弟子であると同時に、同じ舞台を作る1人の仲間。舞台上では彼も重要な役割を担っています。一般の家庭でも、親は子どもに教えるだけでなく、ある意味対等になれる共同作業の場を持つことは、大きな意味があるのではないのでしょうか。

とはいえ、父親たちは仕事が非常に忙しく、核家族化も進む現代。何かひとつの到達点を求めたり、家族意識を持つというのは難しい時代です。親子、あるいは親子3代で何かをやって、めでたい気分になれるとはどういうことなのか、私もこの機会にぜひ考えてみたいと思います。

児玉 勇二（弁護士）

僕の長男は自閉症の傾向を持つ障害児として生まれ、3歳になっても情緒不安定で言葉がなかったんです。その当時の僕は、育児はカミさんまかせの仕事人間だったのですが、健康を害して、裁判官をやめ、半ばノイローゼ状態。ところが、必死で食事療法や生活習慣を替える努力をしているうちに、病気が治ったんです。人の体の中にある自然治癒力、ダメだと思ったときに湧いてきたその力に僕は自

信を取り戻しました。障害をもつ長男にも、きっとそういう力があるに違いないと信じたときから、僕の子育ては始まったのです。

大学教授主催の言葉の教室へ通わせても全くしゃべらなかつた息子は、ある日、保育園で突然友達の名を呼んだんです。「ウ〜、ゲンタクン、マイコチャン」その時の感動！僕は子どもたちの中で成長していく「息子」を初めて発見しました。「大人が押し付けてもダメ。子どもの拒否は訴えなんだ」と。その確信は子どもの人権の発見となり、弁護士としてのテーマへと発展しました。あらゆる子どもの問題が身近になり、息子と共に生きる中で、熱心な先生や地域の「親父会」などの人間関係も広がって、僕の今に繋がっています。

僕は、少年犯罪事件も数多く扱ってきましたが、問題のある子どもは、父親との関係が薄いことが多いですね。だから、お父さんには、もっと子どもと触れ合っていて欲しい。大人が変われば、子どもも変わる。それを教えてくれたのが子どもたちです。

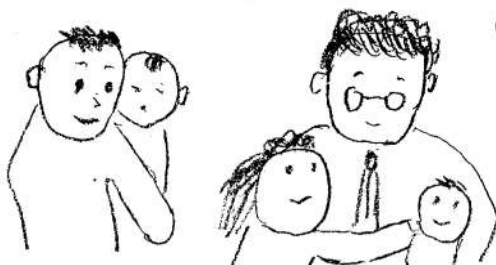


広岡 ^{もりほ}守穂（中央大学法学部教授・NPO推進ネット理事長）

僕たち夫婦は学生結婚で、5人の子どもに恵まれました。3人目が産まれた頃、妻が突然、英会話や司法試験などにチャレンジし始めたのですが、どれも見事なまでの三日坊主。ある日、そんな彼女を軽い気持ちでからかうと、突然泣き出し一晩口を聞いてもらえない。どうやら、子育てにばかり時間をとられ「自分育て」ができないことに大きな不安を抱えていたようなのです。結婚10年目にして初めて知った妻の胸の内。これは、僕にとって大きな衝撃でした。

子育て中の母親が特にバクハツするのは、育児そのものへのフラストレーションというよりも、社会から取り残されているような孤独感や、思うように「自分育て」ができないことへの不安や焦りの方が大きい。そういう時に夫は、間違っても心ない言動で追い討ちをかけてはいけません。実際、講演でこのエピソードを話すと、必ず会場のあちこちからすすり泣きが聞かれ、同じ経験をもつ主婦がいかにか多いか思い知らされます。

子育てに関する夫婦の認識には、本当に大きなズレがあるのです。夫が家族サービスのつもりでレジャーの計画を立てているのに、妻の方では、とにかくひとりになれる時間を切望していたり。夫が家事や育児をすることは大前提ですが、むしろ、そういうギャップを理解した上で、お互いの人生をきちんと支え合い、子育てを通して夫婦が一緒に「自分育て」をしていくことが大切だと思うのです。



（企画・制作 NOP 法人 日本子ども NPO センター）